

武蔵野の面影が残る冬枯れの林の中、艶やかな緑のやぶ椿に灯が燈ったように赤い花が咲いています。私の通勤時間はメジロ達の朝食時間のようです。

春間近、花の開花や芽吹きは人の心もウキウキさせてくれますね。

『お客様の希望の寸法で、希望の色で』お作りします。受注生産というノーストックのカシミアフェアーを開催しませんか。開催予約受付中です。別注をしたいけど『枚数』がネックですよね。UTOでは一型十枚よりお受けします。ニサイズ五色だったなら各色一枚ですよ。お気軽にご用命ください。

アメフトで足を傷めた営業の上坂は無事に手術も終わり復帰しました。そして新しいメンバーが加わりました。企画の鳥尾です。宜しくお願いします。

【なぜ、そんなに早くから注文するの?】という質問を受けることがあります。その殆どがメーカー仲間やお店の人たち。いわゆる供給側の人たち。

お洒落が好きで実際に注文してくれた人からそのような声は聞かれません。一人一人に対応して製造するので時間がかかるのと製造枠が少ないので早いもの勝ちは間違いありませんが、注文した人は注文した時から『今年の冬はあのセーターにこんなスカートを合わせてお出かけしよう』とワクワクするのです。実際に着る喜び、そして待つ間の二重のワクワクが得られるんです。

お客様は喜んで注文をして下さっていると、自信を持ってお勧めしてほしいものです。本当に気に入ったりソートホテル。通はチェックアウトする時来年の予約をして一年間ワクワクするんです。

【貴方のカシミアが甦ります】

貴方をやさしく暖かくつつんでくれ、大切に着ていたカシミアセーター。薄くなったり虫にやられて穴が開いてしまっても愛着がいつぱいで捨てられずに筆筒の中で眠っていませんか? そんなセーターを甦らせて着てあげたらカシミアもきつと喜んでくれると思います。

ロールセーター

No. 1257 ¥38,000.-



ネック、袖口、裾のロールでさりげなく賑やかな山の手のお洒落を表現しました。上質のカシミアだから長く着たい、何回も着たい。ワンランクアップのニューベーシック

手織ケーブル編みVセーター

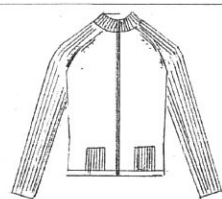
No. 1517 ¥55,000.-



ちびV 衿、ザックリの5ゲージボディと袖のケーブル編みは手織ならではの凹凸感。一見手編みかと思う迫力です。UTOならではのカシミア100%の贅沢

ラグランジップカーデ

No. 2568 ¥55,000.-



12ゲージの軽いジッパーのカーディガンジャケットは、初秋や春先に大活躍。ボディは天竺、袖はリブ編み。袖やボディを違う色で作るのも楽しいですね。



花だいこん

皆で持ち寄って新しい綿と混ぜ合わせて糸を再生させて全く新しいセーターを作る企画です。いろんな色のミックスでどんな色になるか楽しみみです。是非ご参加ください。

【南青山界限】 UTOはこんな街から発信しています
都会の中の日本庭園がお勧め・東洋古美術の殿堂

根津美術館

骨董通りという『古い木造の暗い店が並んでいる狭い通り』。そんなイメージが湧きそうですが、ここ南青山骨董通りには有名なブティックが並び、東京でも有数のお洒落通りです。名前通り以前は骨董屋さんが集まっていたりだっただけですが、今では少なくなっています。でも表側からはあんまり目立ちませんが、裏で営業したりブティックの入るビルオーナーは骨董屋さんというの也不少あります。

でも、この骨董通りには西洋アンティークや家具などはあまり無く東洋の古美術が中心なんです。私の想像ですが、骨董屋さんが集まるきっかけは根津美術館じゃないかと思っています。

UTOの裏にある岡本太郎記念館のことを4号で案内しましたが、根津美術館は歩いて2〜3分のところですが、フロムファーストのすぐ近くで、裏門は骨董通りに面しています。

『東洋古美術の殿堂』といわれ茶の湯や仏教美術のコレクションが誇りで、7千点あまりのコレクションの中には国宝が7点、重要文化財や重要美術品が180点もあるそうです。興味ある人にとっては垂涎の的だと思います。

創立者は東武鉄道を初め日本の鉄道発展に貢献した財を成した根津嘉一郎翁で、この敷地も根津邸だったそうです。広大な敷地で、起伏に富んだ日本庭園は深い緑に覆われ、茶室や池があり四季を感じさせてくれるまさに都会のオアシスです。

戦後に骨董屋さんがこの通りに集まってきたそうです。美術館を訪れる人を目当てに骨董屋さんや収集家が集まってきたんじゃないでしょうか。

美術館を訪れ、逸品に感動した余韻で骨董屋さんと骨董談義に花を咲かせたんでしょうね。最高の古美術を見た後に、『美術館級のもですよ』なんて勧められたら欲しくなるのは当然でしょうから。

骨董通りの名付け親らしい、『いい仕事してますね』の中島氏の店も近くでしたが、今は眼鏡屋さん。店売りよりタレント業の方が忙しいんでしょう。

根津美術館と言え私にとっては、国宝の尾形光琳筆・燕子花図(かきつばたず)。あの絵に会いに行くと行っていいくらいなんです。この3年ぐらいずっと修復中で全然展示がありません。

すぐ近くですから気分転換がてらあの『かきつばた』の絵が見たら千円の入場券を払ってもいいと思っただけですが、古美術の知識の無い私にはかきつばた無しでは魅力が半減です。仕方ないので庭園の中の喫茶店で庭園を眺めたり散策して帰ってきていたんですが、二三年前から『庭園だけの見学はお断り』と入り口に掲示されるようになりました。ひよっとしたら私のせいかも。

何回か入場券を買ってお庭だけ散策して帰ったことがありますが、千円で庭だけというのなんだか馬鹿らしく、面白い企画展のとき以外はご無沙汰になってしまいました。せめて三百円ぐらいでお庭だけの入場だったら毎月二〜三回は季節を感じに行ってもいいなと思っただけです。

今年の十月にやっと修理を終え『かきつばたず』が帰ってくるのが楽しみです。

この美術館、私には展示の仕方が無機的で味気なく折角のお宝が抜け殻のように見えるし、7千点もの収蔵があるには展示数も少なく不満です。余計なお世話でしょうが。



* ニットの話 * (十四)

ニットゲージの話

— インチに編み目がいくつが目安

今回はゲージの話です。もちろん物差しや鉄道軌道のゲージではありません。

このニットゲージを理解しているとニットを扱う上でとても便利です。

セーターで、薄手とか厚手などは見た目や手にとった感じで違いがすぐ解りますね。薄手のセーターは細い糸で編目が密に、厚手のセーターは太い糸で疎に編まれています。(当然か??) その薄手とか厚手を数字で表しているがこのゲージで、とっても合理的なんです。

UTOのインナータイプのセーターは基本的には12ゲージですが、この12という数字がポイントで、ニットを編み立てる機械の針が1インチ(約2.5センチ)に12本あるという意味です。

ニットは編み機の本一本の針に糸を引つ掛けることでループ状の編み目を作っています。

セーターを見て頂くと分かると思いますが編み目が縦に並んでいますが、12ゲージは約2.5センチに12本の編み目で編まれますのでひと目が約2ミリの編み目のセーターということになりますね。

しかし、厳密には2ミリの間隔で編まれた編地はループですから縮まるうとしますので、もう少し間隔は狭くなります。この縮まり具合は編み糸や編地の種類によっても大きく変わってきますので2ミリりはあくまでも目安です。

例えば半身45センチのバスターのセーターを編むとしましょう。45÷2.5=18。そうです、英国的には18インチのバスターのセーターです。

18インチを編むには18×12=216本。200本以上の針が必要になります。(こんなに単純ではないです)

手編みは編み棒でひと目ひと目編んでいきますね。もし



手編みで半身45センチのバスターのセーターを12ゲージで編むとしたら、一列を編むために200回以上も編み棒を動かさなければならぬということですね。なにせひと目が約2ミリですから大変です。

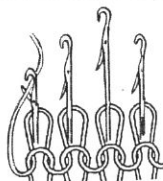
5ゲージなら1インチに5本という具合ですからひと目が約5ミリ。45センチを編むに90回ですから12ゲージとは随分違います。

ザツクリ編まれた分厚いセーターは暖かくて高級な感じがしますが、プロから見ると細いゲージで編まれたセーターのほうがざつと難しく細かく揃った編地に技術の良し悪しが顕著に出ます。特に平編みと呼ばれる天竺編みはきれいに揃った編み目が勝負です。UTOのセーターの編地のきれいさは一番の自慢であり誇りです。

セーターの編み機は、日本では一般に12ゲージ、10ゲージ、7ゲージ、5ゲージ、3ゲージが使われ、1.5ゲージというのまであります。12ゲージと10ゲージをハイゲージ、7や5ゲージをミドルゲージと呼び、3ゲージより粗いのをローゲージ、人によってはバルキーと呼んでいます。

編み機はゲージの違いは決定的で、12ゲージの機械は12ゲージの編地しか編めません。ですから10ゲージは10ゲージの機械、5ゲージは5ゲージの機械と各々ゲージの機械を用意しなければなりません。

このゲージのことを覚えておくと自分のセーターはおよそ何ゲージかすぐに分かります。皆さんが持っているセーターの編地の山を数えてみてください。『何ゲージのロールネックのセーター』なんて、ゲージが出てくると、『オッ、知ってるな』とかっこいいですね。



忙中暇話・ニット屋のたわごと

入れ替え戦



2004年12月11日、土曜日。今日はアメリカンフットボールリーグ(一部)の最下位のハスキーズと二部リーグのトップのハリケーンズと入れ替え戦。12月にしてはほかほかの陽気の中、屈強の男達が走りぶつかり合っています。よくもまあこんな痛そうなおスポーツを好んでやるなあと思います。

でも今日はそんなのなきなことを言っている場合ではないんです。その中に我が社の土坂がスタメンでプレイしているの応援するにも力が入ります。

このハスキーズのデフエンスラインの厳しい男は、営業で始めて訪れるお店の人をびくつきさせていますが、風貌の割には細やかな仕事振りなんです。早朝にスポーツクラブに行ったり、休日や夜など練習は頑張っているらしくよく筋肉痛で『イテテ・イテテ』を発しています。

こんなに頑張っているんだからたまには応援に行かねばと川崎球場まで出掛けた次第。

サッカーのJリーグに比べると観客はそんなに多くはいませんがアメリカンフットボールなら華やかなチアリーダー達も頑張っていました。

一進一退の拮抗したゲームでしたが、勝ち上がったチームの勢いが残り残念ながら上坂のハスキーズは敗退して二部へ降格してしまいました。落胆する選手達には声をかけるものはかられ早々に家路につきました。

残念。トップリーグから二部に落ちるのは本当に残念だと思っけど、今まで何回か応援に行った試合の中では今日の試合が今まで最も白熱して面白く応援のしがいがありました。一部ではかなり実力の差があり大差での敗退の試合ばかり見てきたので、正直ちょっと可哀相に思っていました。この悔しさをバネに今年は二部で頑張って連戦連勝して勝ち喜びやゲームの面白さを味わって是非一部に帰って欲しいものです。

『社員が社会人リーグに出るようなスポーツをやっていたら仕事に熱が入らないのでは』と心配してくれる人もいます。しかし、僕はそうは思いません。仕事は仕事、余暇は余暇。いい余暇を過ごしていい仕事をする。それが出来ない人は仕事は出来ないでしょう。大人の社会人なら引き際や仕事との区別もきちんとしてほしいです。チームスポーツもビジネスも基本的には同じだと思います。スポーツに真摯に取り組むことは必ずビジネスの約に立つはず。そしていいスポーツマンは紳士です。ただ、怪我だけに注意して頑張ってください。

世界のホテルを旅する (十四)

元、旅行屋のお勧めナッソー・バハマ

クリスタルパレス ホテル

カリブの国々。皆さんはどんなイメージを持ってますか? 私の抱いていたイメージは、眩しい太陽、青い海とサンゴ礁、陽気で気さくなカリビアン達というイメージでしたが、現実のクリスタルパレスホテルは、

飛行機から見下ろした海。真っ白から黒に見える群青までブルーのグラデーションはこんなにもきれいな色かと感動させられます。バハマの首都、ナッソーに降り立ると、青い海はもちろんお店などのライトアップやカリビアン達のホスピタリティが異国で張り詰めた神経を瞬間に緩めてくれます。

バハマの一番の観光資源は底抜けに明るいバハマの人達。ナッソー市内から乗り合いバスで本日も泊りのホテルのクリスタルパレスへ向かいます。やってきたバスの運転手に「クリスタルパレス?」と聞くと、デツカイ声で、「イエス!、クリスタルパレス!」と大きな声。いかにも、クリスタルパレスに行くんだらう!と言わんばかりです。こちらも負けず「イエス!」と答えると「グッド」と親指を上げてにこり。これでもうお互いに友達になったような気分。



市内からケーブルカーまで約二十分。ドライブのおっさんは乗客と大きな声で喋ったり、笑ったり、歌ったりし通し。仕事が楽しくたまりないうです。それでいて、『そろそろかな?』と外を見ているとドライブのおっさんは「ワー・モア!」としゃかり開放に叫んでくれます。車内に開放感と楽しさが充満したバスです。

目的地が近づくドライブのおっさんは、「ケーブルカー!」とデツカイ声と手を上げて教えてください。乗り合わせた乗客からも「グッディ!」の挨拶と笑顔がいっぱいです。ほんのひと時のバスの中で楽しい人達との出会いが嬉しくなっています。

クリスタルパレスは美しい砂浜のケーブルカーにテンと建てています。大きさも豪華さもバハマで、一、二を競い、カジノまである巨大ホテルです。ホテル全体の外壁がレインボーカラーに塗られ、目立つこと賑やかなこと。ラスベガスがホテルごとバハマの海辺に引越してきたような異様な感じがします。あんまり趣味は合わないけど、世界中からカリブの陽気さと開放感を求めてきた人達で一杯。昼夜を問わず大賑わい。冬には思いっきり羽目を外す休日があっても良いでしょう。冬の東京の寒い日は、バハマの青い海とあの陽気で暖かかった人達の笑顔が浮かびます。 うと